

7月28日(土)~8月26日(日) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : 盛岡 夕美子



盛岡 夕美子

サンフランシスコ音楽院でピアノと作曲を勉強。帰国後は、宮下智のペンネームで、田原俊彦の「ハッとしてGOOD!」や「NINJIN娘」等多くのヒット曲の作詞作曲を手がけてきた。本名の盛岡夕美子としての活動は、クラシックピアノの演奏、コシミハルや細野晴臣等とのミニライブ、CD制作は、ピアノアルバム『レゾナンス—余韻』、民族楽器(琴、シタール、etc.)を使ったバンド『カルチャーミックス』を日本で発売、イギリスのレーベル、リサーチエンスより、Bill Nelsonとのコラボのアルバム『Culturemix』を発売。28年間の在米生活の後、現在は日本とアメリカを往復しながら音楽活動を再開している。

今回のセレクトCD

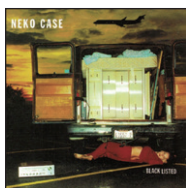
1.



London Grammar / Truth Is a Beautiful Thing (Metal & Dust / MADART2)

ロンドン・グラマーは2009年に結成されたイギリスの3人グループで、これは2017年6月にリリースされた2枚目のアルバムです。1枚目の「If You Wait」はUKのアルバム・チャートで2位まで上がり、これは、堂々1位を獲得しました。リード・シンガーのハナ・リードの自信に満ち溢れたように聞こえるヴォーカルからは想像もつきませんが、彼女はステージ恐怖症で有名だそうです。

2.



Neko Case / Blacklisted (Bloodshot / BS099)

ネーコ・ケイスは、カントリー・ミュージックの世界ではダークな存在として、“Country Noir”(カントリー・ノワール)などと呼ばれています。彼女の世界は、ドリー・パートンのような明るい世界と全く違い、独特の気だるさ、やる気のなさのような退廃的な雰囲気を出しています。2001年のコンサートのステージで、シャツを脱いで上半身裸になってしまったことからイベントへの出場停止処分を受けたりもしました。そんな奔放な女性ですが、このアルバムは音楽的に素晴らしいものです。

3.



Toumani Diabate with Ballake Sissoko / New Ancient Strings (Hannibal / HNCD1428)

1999年にアフリカのマリでこのアルバムはレコーディングされましたが、トゥマニとバラケの父親達、Sidiki Diabate(シディキ・ジャバテ)とDjelimadi Sissoko(ジェリマディ・シソコ)がその20年前に“Cordes Anciennes”(コルド・アンシエヌ)として、初めて西アフリカのハーブと言えるコラをソロ楽器として世界に紹介したことを考えると、親子2代続けて一緒に演奏しているというのは凄いことだと思います。このアルバムは、2人の父親たちへ捧げられています。

4.



Billie Marten / Writing of Blues and Yellows (RCA / 88985342022)

イギリスの北ヨークシャー生まれの彼女は、このデビュー・アルバムを製作した時は、わずか17歳の高校生でした。12歳の時に出演したYoutubeで彼女の歌が一躍有名になり、その後ヨーロッパを中心にライブを続け現在に至ります。都会の喧騒に疲れた時に、落ち着けるカフェでかかっていたら嬉しい音楽です。

5.



Trio da Kali and Kronos Quartet / Ladilikan (World Circuit / WCD093)

1973年にアメリカで結成されたクロノス・カルテットはサン・フランシスコをベースとして、現代音楽を中心としたさまざまなジャンルに非常に意欲的に挑戦しています。彼らは、ジミ・ヘンドリックスのパープル・ヘイズのアレンジで有名ですが、他にもデイヴィッド・ボウイ、ビョーク、ジャズ、タンゴなどあらゆるジャンルをこなしています。このCDは彼らが、マリのトリオ・ダ・カリと共演してできた素晴らしい作品です。